

# JFMA 第9回（2015）日本ファシリティマネジメント大賞

## 功績賞 受賞記念講演

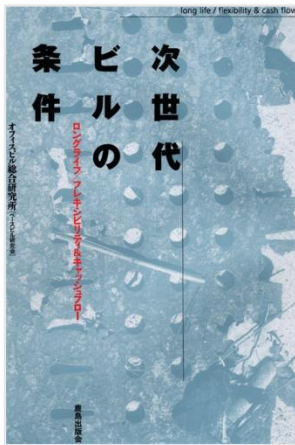
### ○ 応募のプロフィール

- ・応募のテーマ：オフィスビルにおける「あるべき姿の提言」出版活動
- ・個人の応募：本田広昭 株式会社オフィスビルディング研究所 代表取締役



ライフワーク活動  
日本のオフィスを豊かな空間に！

2000年5月出版  
（鹿島出版会）



2006年12月改定出版  
（鹿島出版会）



2014年6月出版  
（白揚社）



## ◇社会や時代の変化に対応したオフィスビルのあるべき姿について提言出版活動を展開



2000年5月出版  
(鹿島出版会)

ロングライフビルの条件  
環境の世紀のオフィス建築  
投資評価に強いビル  
テナントを満足させるビル

No31: ファシリティマネジャーと連携を  
次世代ビル実現のプロセス  
次世代ビルへの招待

未来社会への対応  
21世紀の  
建物評価軸

21世紀社会の始まり  
グローバル社会  
エコロジー社会  
成熟社会  
高度情報化社会

執筆の時代背景・・・1997年～1999年<18年前>

### ◆1990年バブル経済崩壊後の新たな秩序づくりが始まる

- ・土地から建物主役の時代へ（キャッシュフローの重視）
- ・収益不動産の証券化はじまる（不良債権処理）
- ・グローバルマネーからの不動産投資はじまる

### ◆環境の世紀が始まる

- ・1997年COP3京都会議で地球温暖化対策が本格化
- ・CO2排出量3割削減、耐用年数3倍増へ・・・日本建築学会
- ・国際的な評価基準づくり：グリーンビルチャレンジ98

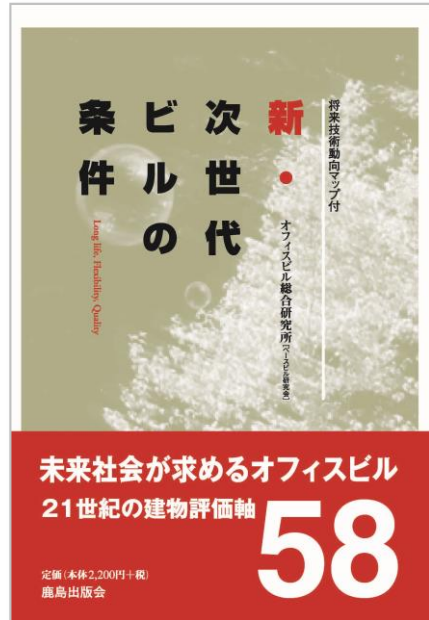
### ◆成熟・低成長経済下における高コスト構造の転換

- ・フローからストック活用時代へ（スクラップ&ビルドの決別）
- ・規制緩和による自己責任社会へ  
(建築基準法性能規定・仮使用承認制度改革)
- ・ユーザー指向（CS・FMの普及）  
自由度が高いビル・維持費が少ないビル・人に優しいビル

### ◆IT（情報技術）革命・デジタル化

- ・ネットワーク技術の進展と普及
- ・ワークスタイルの多様化やオフィス形態の変化

## ◇社会や時代の変化に対応したオフィスビルのあるべき姿について提言出版活動を展開



2006年12月改定出版  
(鹿島出版会)

健康で超寿命なオフィスビル  
地球環境を守るオフィスビル  
投資評価の高いオフィスビル  
テナントに喜ばれるオフィスビル

No31: FMの視点・接点を持つ

次世代ビル実現のプロセス

その先のオフィス～自然と人との親和空間

未来社会が  
求めるビル

次世代ビルの条件執筆  
から7年経過後の2005  
年実務を通じた検証と  
新たな視点を加えた

### ●「環境親和」という新たな視点

機械や設備に過度に頼らず、自然光を取り入れ、風を通し、美しく年をとる素材を使い、都市や街に開き、景観や街並みと調和し、交感するようなオフィスビル

### ●ロングライフ&フレキシビリティ

躯体は地震などの災害や経年変化に耐えうる健全な骨格とし、内部は時代変化に対応できる柔軟性を備えたものであることが、われわれが考える「次世代ビル」の基本形であり、その両方を満たすものでなければ、よいストックとはなりえない

### ●コストからアトラクティブネス（魅力）へ

ライフサイクルコストという長期的視点で、もっとも経済的かつクオリティも高く、働く人々にとっても魅力的なビルをつくる方法を考えたい・・・もっと自然力を取り入れ、人間観感覚に合った「かたち」をオフィスビルの新たな価値やクオリティとして捉え直すことはできないだろうか

### ●グローバル化と日本らしさ

「理想」「美」「文化」「感性」「見識」といった、数値で測りきれないものが重要ではないか・・・キャッシュフローだけですべてを判断するやり方に対して我々は「NO」といいたい



## ◇社会や時代の変化に対応したオフィスビルのあるべき姿について提言出版活動を展開



2014年6月出版  
(白揚社)

2030年のワークスタイルとオフィスビルの行方  
オフィス&オフィスビルに求められるもの  
環境と防災—オフィスビルの社会的責任  
「2030年ビル」をつくる技術・使う技術

No41: FM最前線からFMの進化形を展望する  
特別編: 2030年に向けた法制度の課題

近未来オフィスビルは必要か？

働き方が変わる  
オフィスが変わる  
オフィスビルも変わる

2030年には、オフィスビルの使い手である「人間」も「企業」も変わり、「働き方」も大きく変わるだろう。当然ながら、その器であるオフィスビルに求められるものも変わるはずだ。その変化は、これまでのようにオフィスビルのスペックを高め、競い合う方向とは異なる種類の変化であろう。そうした変化の予兆を捉え、近未来においても、テナントやワーカー、投資家などから求められ、価値を認められるオフィスビルの姿を明らかにすることが、本書の最大のテーマである。

- 人が集まり協働する「場」としてのオフィス&オフィススタイル
- オフィスの主役は「ワーカー」から「プレイヤー」へ
- 「個」が連携し、新たな価値をつくり出す時代のオフィス
- 未来は与えられるものではなく、自らつくるもの
- 「オフィスビル2030」出版のルーツと系譜

生産人口の減少や企業の生産拠点の海外移転、世界的な都市間競争など、オフィスビルを取り巻く環境は決して楽観視できない。しかし、未来はひとりひとりがつくり出すものだ。時代の大きな転換期において、本書がよりよい未来をつくり出すヒントになれば、幸いである。

☆個人が心地よく、素晴らしいと感じる未来社会を信じて！

「次世代ビルの条件」 活動期間:1997年10月～2000年4月 **2年6ヶ月**

「**新・**次世代ビルの条件」 活動期間:2005年12月～2006年11月 **1年**

浅沼龍一さん（竹中工務店） **FM分野**

伊藤幹雄さん（伊藤環境デザイン研究所） **オフィス家具デザイン分野**

岩井光男さん（三菱地所設計） **建築設計分野**

岩澤明彦さん（A&I研究所） **建築設計・インテリアデザイン分野**

植村公一さん（インデックスコンサルティング） **プロジェクトマネジメント分野**

大武通伯さん（LC企画） **ライフサイクルコスト分野**

**太田三津子さん**（不動産ジャーナリスト） **メディア・広報分野**

川合廣樹さん（リスクソリューションズインターナショナル） **リスクコンサル分野**

木俣信行さん（鳥取環境大学） **環境デザイン分野**

葛岡典雄さん（鹿島建設） **建築設備分野**

小林茂允さん（JR東日本都市開発） **プロジェクトマネジメント分野**

**竹田かおりさん**（ゲンスラー） **オフィスコンサル分野**

中川誠一さん（ネクストエム） **建築設計・インテリア分野**

堀千太郎さん（竹中工務店） **建築設計分野**

三上慎司さん（日建設計） **建築設計分野**

森島清太さん（鹿島建設） **建築設計分野**

李 泰久さん（システムオー） **オフィスデザイン分野**

田中淳逸さん（三幸エステート） **FMコンサル分野**

主宰:本田広昭（オフィスビル総合研究所） **オフィスビル研究分野**

チーム

19

# 「オフィスビル2030」出版研究会 活動期間:2012年7月～2014年4月 1年9ヶ月

杉本健一さん（三井不動産） 環境・ビル運営分野

神林弘行さん（日本設計） 建築設計・リニューアル分野

内原英理子さん（日建設計） 建築設計・環境分野

杉本泰宣さん（日建設計） 建築設計分野

平野文尉さん（森ビル） オフィス事業企画分野

大倉清教さん（ケプラデザインスタジオ） オフィスデザイン分野

大島一祐さん（飯野海運） 不動産事業企画・プロジェクトマネジメント分野

似内志郎さん（日本郵政） 不動産・FM・ユニバーサルデザイン分野

長坂将光さん（日本マイクロソフト） FM分野

山極裕史さん（三菱地所設計） 都市計画・建築設計分野

腰高夏樹さん（エー・ディー・パートナーズ） CM・FM分野

平岡雅哉さん（鹿島建設） 建築設備設計分野

小澤英明さん（西村あさひ法律事務所・弁護士） 不動産・環境分野

徳本幸男さん（竹中工務店） 建築設計・オフィスコンサル分野

松岡利昌さん（松岡総研・名古屋大学准教授） 経営コンサルタント・FM分野

山下正太郎さん（コクヨファニチャー） ワークスタイル・オフィス研究分野

鯨井康志さん（岡村製作所） オフィス研究分野

奥鍊太郎さん（CBRE） オフィスコンサルタント分野

古阪幸代さん（WFM） FM・オフィスコンサルタント分野

葛岡典雄さん（アルモ設計・鹿島建設） 建築設備設計分野

アドバイザー: 齋藤敦子さん（コクヨ） ワークスタイル・オフィス研究分野

仲 隆介さん（京都工芸繊維大学デザイン経営工学部門教授） オフィス研究分野

小笠原泰さん（明治大学国際日本学部教授） 文化研究分野

編集: 太田三津子さん（不動産ジャーナリスト）／出版: 中村幸慈さん（出版社 白揚社）

主宰: 本田広昭（オフィスビルディング研究所）／今関豊和（オフィスビル総合研究所）

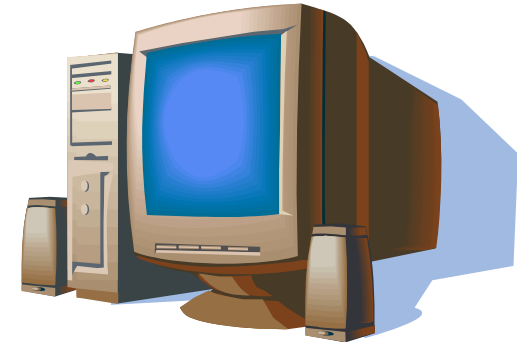
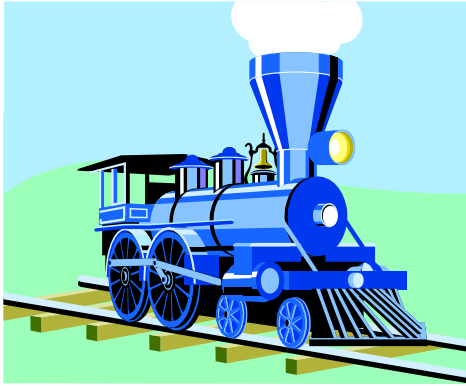
チーム

27

いつでもどこでも働ける時代において、オフィスやオフィスの存在意義はあるのだろうか。あるとすれば、その主要な目的と役割とは何か。そして、そのときに求められるオフィスのような機能、空間、デザイン、設備を備えたものなのか。さまざまな角度からこれらの疑問を解き明かそうと、オフィスビルに関わるさまざまな分野の実務家と「オフィスビル2030出版研究会」を立ち上げ、1年以上オフィスで頭を突き合わせて議論を重ね、あるいはオフタイムに酒を酌み交わしながら意見を交わしてきた。

振り返れば、こうしたコラボレーション自体が、前述の問いの答えだったように思う。すなわち、**「社内外の多種多彩な人々が集まり、協働するなかで、新たな価値やアイデアを生み出す」**ことが、これからのオフィスやオフィスビルに求められる重要な目的であり、役割ではないだろうか。

「ICTが進化しても、フェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションの重要性は色あせず、集まる『場』としてのオフィスは必要とされる」というのが、我々が達した結論だ。人々は「場」を共有することで、無意識に多くの情報を交わしている。経営者もワーカー自身もこうした「場」の価値と効果を無意識に感じ取っているように思う。そう考えると、2030年のオフィスビルに求められるものは**「多彩な人間が集まる効果や価値を最大限に高めること」**といえる。



産業革命はレイバー（肉体労働）からワーク（工場の仕事）に代えた。レイバーは仕事を奪った機械に怒って打ちこわし運動を展開した。

今、IT革命によりワークはコンピューターに取って代われ、さらに海外の低い賃金の労働者に仕事を奪われている！

しかし、ワーカーはコンピュータを打ちこわしたり、外国の低賃金労働者を恨むのだろうか？

**大切なのは、機械や情報システムに置き換わってしまうワークではなく、人間にしかできない質の高いプレーヤーとしての仕事が増えていくように努力することである。**

**仕事を処理するワーカーから、仕事をつくり出すプレーヤーの時代に！**



断絶の時代・・（1969年）

来たるべき知識社会の構造！ P.F.ドラッガー

脱工業化社会の到来・・（1973年）

社会予測の1つの試み！ ダニエル ベレ

知価革命・・（1985年）

工業社会が終わる・知価社会が始まる！ 堺屋太一

ネクスト・ソサエティ・・（2002年）

歴史が見たことのない未来が始まる！ P.F.ドラッガー

知識創造社会（ビジネスの頭脳化時代）の真っ只中！

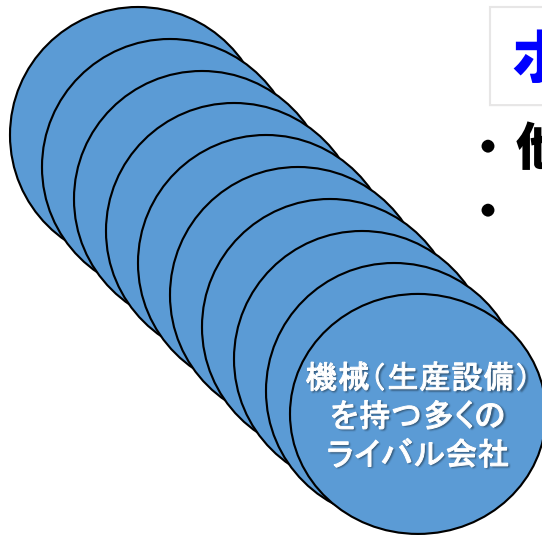
働く環境（オフィス空間）は・・

プレイヤーが「集う場」に相応しい価値が求められる時代に！

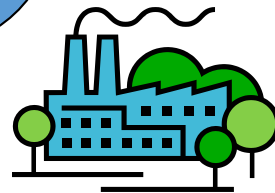
# サービス・ソフト産業など、 あらゆるビジネスモデルも横並びから大競争時代に！

## 産業資本主義・横並びの時代

- ・ 機械（生産設備）を持つ多くのライバル会社

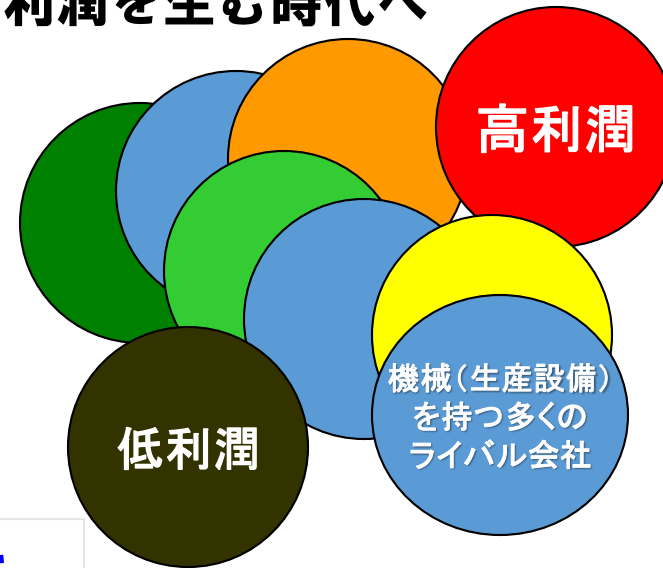


機械（生産設備）  
を持つ多くの  
ライバル会社



## ポスト産業資本主義の時代

- ・ 他の会社とは「異なった」技術・製品市場・経営 e t c
- ・ 「差異性」から利潤を生む時代へ



高利潤

低利潤

機械（生産設備）  
を持つ多くの  
ライバル会社

## 常に新しさが求められる時代

- ・ 他の会社による模倣「新しい」技術・製品市場・経営が常に必要
- ・ 知識社会・高度情報化社会・脱工業化社会

岩井克人氏（経済学者）  
東京大学経済学部名誉教授



# 「会社はこれからどうなるのか」～「差異の創造拠点」としてのオフィスの役割

## ヒト（人間）が資本の時代

- ・「差異性」を生み出せるのは「人間」のみ
- ・人間の頭脳の中の知識や能力が
- ・「資本」（＝利潤の源泉）
- ・ **おカネでモノを買えるがヒト（人間）は買えない→お金が支配力を失う時代**
- ・ 企業の利益の源泉は・工場からオフィスへ・モノの生産から知的生産へ  
↓
- ・ ポスト産業資本主義は「個人」の時代？  
だが、個人の独創性（優れたアイデア）の寿命は短い  
↓
- ・ ポスト産業資本主義は個人とそのチーム（組織）の重要性が増す時代

**☆それぞれの専門分野の人々がチームの中で、持続して「差異」を生み出し続けていく「組織」づくりこそ、21世紀における会社の命運を握る！**

**一人の天才よりチームが重要という流れが、あのシリコンバレーでもささやかれているように！**

## ◇ 働く環境の変化

どこでもオフィス＝ワークプレイスの時代

・・・人(プレーヤー)が集い情報が交流するセンターオフィスに期待される役割！

働き方の進化・・・

- ・定型業務から知識創造へ
- ・自主性や業績を重んじる評価制度の確立
- ・ICTの進化と急速な普及
- ・ワークライフバランスの重視
- ・・・・などにより、オフィス以外でも働けるようになり、

どこでもオフィス→働く場所の拡がりの総称としてワークプレイスと呼ばれている。



ICT(情報コミュニケーション技術)を本格的に活用したワークプレイスの時代における、センターオフィス(実際のオフィスで人が集まり価値を創造する「場」)の役割(フェイスとオフィスの意義／コンピュータにはできない人間の価値)が高まりつつある。

つまり、知的生産の基となる知的交流(オフィスにおける社内・外とのコミュニケーション)を活発に誘発するオフィス空間の在り方がポイントとなる。



## オフィスの役割

組織のビジョンや戦略を発信する場

集った人々がそれに共鳴する場

プレイヤーが集う「場」として、センターオフィスの価値の最大化をめざす空間の在り方がますます注目される時代に！



ヒントは、百社百様の空間ニーズに応える究極の自由度を如何に実現するか？



- ☆ 空調や照明などの個別制御を可能とする技術の導入
- ☆ 空間デザインの具現化を強力に支援する仕組みの導入

KNOWLEDGE **SALON**  
ナレッジサロン

グランフロント大阪 ナレッジキャピタル

# 近未来 カフェ化・サロン化するオフィス



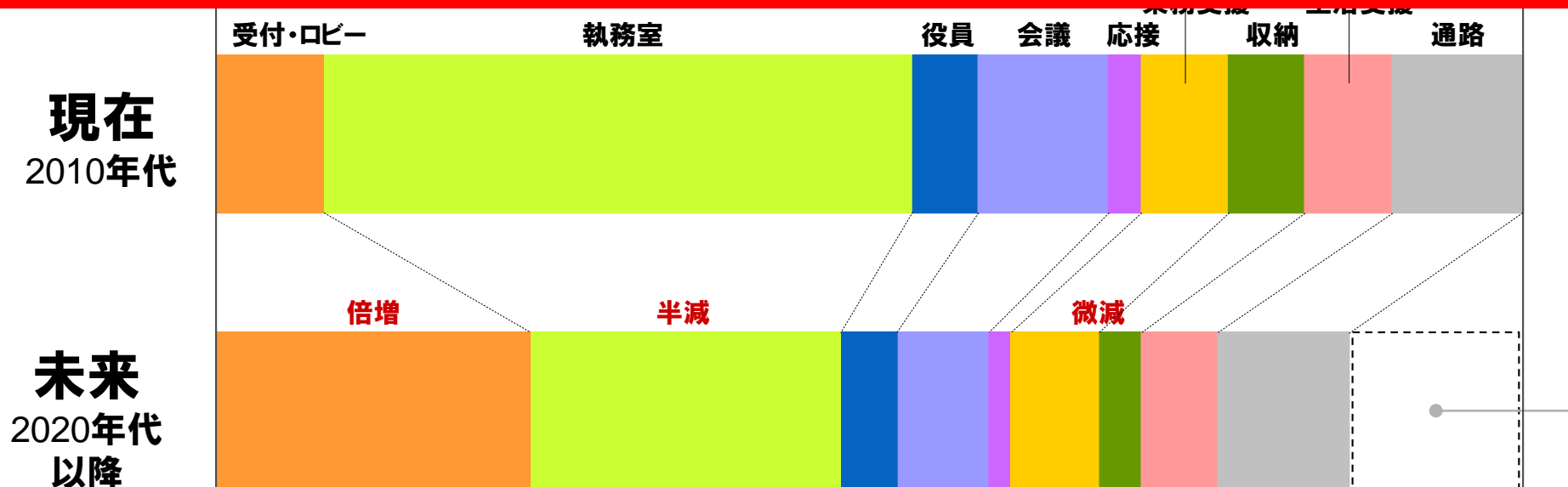
# 2030年のワークスタイルとオフィスビルの行方

## 近未来オフィススペースはどう変化するか

- ①執務室空間は半減
- ②カフェ、サロンのようなスペースが拡大

### カスタマイズエリアの逆転！

20～30%といわれた内装変更対象エリアは、  
サロンのようなスペースなどにより、70～80%に拡大！



# オフィス空間の価値最大化を目指すオフィスデザインに最も注力する、 外資系金融機関の入居事例にみる、標準内装オフィスの憂鬱 …

## — 未使用廃棄 —



フリーアクセスフロアー



タイルカーペット



システム天井



システム照明

ミッドタウンタワー

事例A / 3.5フロアー / 14365㎡

12.6% 13.3% 14.3% 24.6%

新丸の内ビルディング

事例B / 1.5フロアー / 4582㎡

4.0% 100% 39.5% 91.0%

↑  
コーポレートカラーのカーペットが指定されたケースで、竣工済みのカーペットを全面的に貼り替えた

六本木ヒルズ森タワー

事例C / 3.5フロアー / 13590㎡

46.6% 0% 24.5% 49.3%

↑  
コーポレートカラーのカーペットが指定されたケースだが、  
カーペット未施工方式のクォータースケルトン貸しにつき、廃棄の対象にならなかったケース

平均値

21.1%

37.6%

26.1%

55.0%



オフィス空間の価値最大化を目指すオフィスデザインに最も注力する、  
外資系金融機関の入居事例にみる、標準内装オフィスの憂鬱 ...  
—未使用廃棄—



フリーアクセスフロアー



タイルカーペット



システム天井



システム照明

プレイヤーが集うセンターオフィスの価値最大化を目指す  
空間デザインの具現化に付きまとう  
標準内装オフィスの憂鬱！

求められるカフェ・サロンのようなオフィス空間

近未来→70%？

平均値

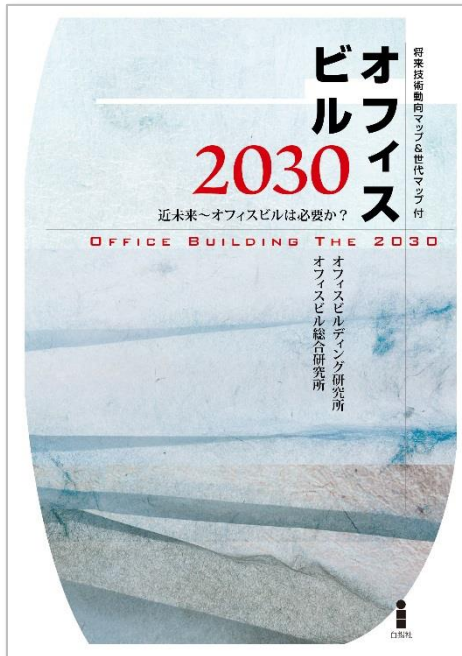
21.1%

37.6%

26.1%

55.0%

## ◇誰もが満足しないオフィスはなぜ生まれる！ 日本のオフィスは「仮の宿」



----先日「オフィスビル2030」の出版に合わせて開催したシンポジウムでは、今後の日本のオフィス環境は、変わっていかないと、繰り返し語られていましたね。

オフィスビルディング研究所ホームページ  
<http://www.officebldg.jp>  
「研究・提言」レポート  
「誰もが満足しないオフィスはなぜ生まれる！」

## 日本のオフィスはいまだ“仮の宿オフィス”

仮の宿オフィスとは・・長期契約が成立しなかった日本では、経済成長による事業拡大を、短期の移転によるオフィス拡張でしのいできた。床・壁・天井・照明など執務室仕様として仕上げ済み標準内装は、建築基準法も3者Win-Winの関係だった。

だれがどのように使うか特定できない宿命を持つ、テナントオフィスビルでは、ダークなカーペットに白い壁、白い蛍光灯という標準的な内装になり、借り手の企業はデザインや使い勝手を我慢する結果に。日本のオフィスの多くは、今でも妥協の産物になっている。

テナント企業は、必要なところだけ改装しようとするが、未使用廃棄と原状回復に悩まされ、残りのスペースは、グレーのカーペットと白い壁、そして1000ルクス、750ルクスの過度な照明を受け入れるしか選択肢がない状態に置かれている。

**みんなわかっているけど変えられない！**

都合の良いやり方・法律が・・・気が付いていながらしょうがない

**2030年ビルとは・・・**「テナントオフィスビルの宿命」といわれ続けてきた、オフィス空間の内装・装備をすべてをビル側があらかじめ完成させて提供する仕組みがイノベーションされた、近未来型ユーザー志向のテナントビルの姿である！

**なぜイノベーションなのか？・・・**「標準的な執務室仕様や均質的な空間環境」をさらにグレードアップさせる高級な仕様や過剰な設備競争は、単にコストUPした“高級な平均”を押し付けることにしか成っていないことに、オーナー自身が気づき始めてきた。ユーザー側もサロン化・カフェ化するオフィスを実現するためには、原状回復義務で無駄なコストや廃棄物がますます増え続けるのではないかと気づき始めている。

一方で、テナントオフィスビルの建築技術では、「だれがどのように使うかわからないので、執務空間として最高の標準・均質を実現させるために、さまざまな最新技術を付加」する「足し算の建築」を標榜してきた。この結果、だれもが満足しないオフィスビルづくりが高コストの限界点に達していて、さらに建築費の高騰という現実の中でこれを打開するには、「引き算の建築」という表現に代表されるような、「変わるものと変わらないもの」を見分ける、革新的な発想が求められる！

**「引き算の建築」とは・・・**それなら欧米の「コア&シェル＝スケルトン貸し」で良いじゃないか！・・・残念ながら内装・装備を後でまとめてデザイン通り造り込むという方法だけでは、革新的な解決はなり得ないし、10年を超える長期契約が成立しない日本では、デザイン通り造り込むコストの回収が難しいと思われる。

革新的な手法の例として、パッケージ化・モジュール化された内装・装備を後で組み立てる感覚で組み込み、後付けや移動、再利用を可能とさせて、コストと環境負荷を抑える手法の開発や、テナントが持ち込む方法で、内装・装備の家具(道具)化により、移動や再利用を可能とさせて、コストと環境負荷を抑える手法の開発も期待される。

・・・床と柱と屋根(天井)で構築されていて、残りはすべて道具で持ち込む、「もったいない心」を共有する私たち日本人の歴史や文化、伝統建築に、そのヒントがある。



2030

すべてを  
テナントに

活動予定期間：2014年8月～2016年7月 提言：2016年6月シンポジウム開催予定  
貸主側の立場：15名／借主側の立場：16名

なぜイノベーションなのか？・・・

せる高級な仕様や過剰な  
ことに、オーナー自身  
原状回復義務で無駄

一方で、テナントオフィ  
高の標準・均質を実現  
この結果、だれもが満  
う現実の中でこれを打  
もの」を見分ける、革新

「引き算の建築」と  
ながら内装・装備を後  
年を超える長期契約が

革新的な手法の例とし  
後付けや移動、再利用  
内装・装備の家具（道具）化により、移動や再利用を可能とさせて、コストと環境負荷を抑える手法の開発も期待される。

☆自由な空間の提供(デザイン支援)

☆ムダの排除(廃棄物削減・コストダウン・収益改善)

例えば・・・

・照明や空調など重要設備が詰まった「オフィスの天井」  
は、本当に必要なのだろうか？

・レントブル比を下けている共用の廊下はなぜ必要なの  
か？(後付け工法の研究も)

・エレベータホールも利用やデザインの自由度を付加し  
て貸し付け対象にできないだろうか？ などなど・・・

・装備を  
志向の

「標準的な執務室仕様や均質的な空間環境」をさらにグレードアップさ  
とにしか成っていない  
を実現するためには、  
めている。

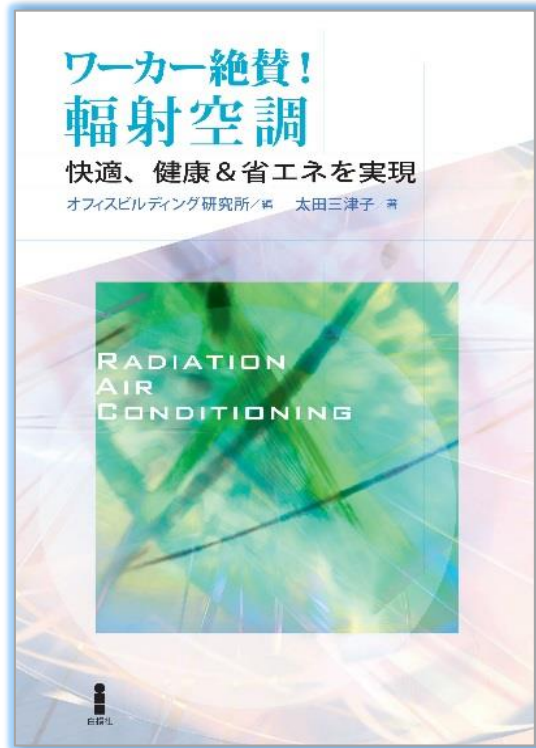
で、執務空間として最  
を標榜してきた。  
に建築費の高騰とい  
わるものと変わらない

じゃないか！・・・残念  
決はなり得ないし、10  
いと思われる。

る感覚で組み込み、  
ントが持ち込む方法で、

J-スタイルオフィスビルディング構想

2015年5月出版予定



出版

オフィスビルディング研究所

協賛

トヨックス

JFMA FORUM Gold Sponsor



はじめに…より

本書のきっかけは「輻射空調」を体感して仰天したことだ。

仕事柄、多くの企業に取材にうかがう。1時間もすると冷房が利きすぎて寒くなる。ところがあるとき、3時間経っても全く空調が気にならない空間に遭遇した。不思議に思って上をみたが、空調の吹出し口がない。後から取材時の電子レコーダを再生したら鮮明で驚いた。ふつうは雑音が混じるものだが、それもない。非常に静寂な空間だったのだ。

「こんな空調方式があったのか」という驚きのあとから、「どうして快適なのか」、「どんな仕組みになっているのか」、「なぜ、こんな心地いい空調が広まっていないのだろう」、次々に疑問が沸いてきた。…

…「同じように輻射空調をよく知らない方がまだ多い状況なのだ。それならば、私が輻射空調を導入した施設をまわり、ワーカーの生の声を聞き、専門家に素人の素朴な疑問をぶつけてみよう」と。

「叩けよ、さらば開かれん」は本当だった。取材を重ねる間に「こんな資料もあるよ」「あの人に逢って見たら?」「今、インドで実証実験の結果が出ているよ」等々、多くの方々から貴重な情報をいただき、専門家の方々は快くイロハのイから教えてくださった。

そうやって本書ができた。だから本当の筆者は私ではなく、取材に応じてくれたたくさんの方々である。

本書がよりよいオフィス環境を求める方々に役立つことを願って。

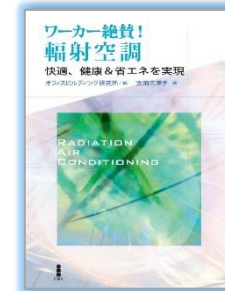
著者不動産ジャーナリスト 太田三津子

2015  
5/13  
予告

『ワーカー絶賛！ 輻射空調』 出版 記念シンポジウム

# 輻射空調で差をつける！

快適・省エネ・健康オフィスビルへ



**2015年5月13日(水)イイノホール(定員500名)** 開演13:00～終演16:20 東京都千代田区内幸町2-1-1

後援: 日本ファシリティマネジメント推進協会・日本ビルディング協会連合会・ニューオフィス推進協会

主催者挨拶(13:00) 本田広昭 株式会社オフィスビルディング研究所 代表取締役

## ◇基調講演(13:10～14:40)

空調業界の世界的権威であるオレセン氏を講師に迎え、世界のグリーンビルの最新動向を交えながら、次世代の空調として注目される輻射空調の有効性についてご紹介いたします。

## 「(仮)進化するヨーロッパの輻射空調」

**ビアネ・オレセン 氏** Bjarne W. Olesen

デンマーク工科大学 教授 ASHRAE(米国暖房冷凍空調学会) 副会長



## ◇パネルディスカッション(15:00～16:20)

### 「輻射空調という選択肢～導入実例」

司会進行: 太田三津子 氏 不動産ジャーナリスト(「ワーカー絶賛！ 輻射空調」著者)

パネリスト: 谷澤 淳一 氏 三菱地所株式会社 取締役常務 / 長谷川 巖 氏 株式会社日建設計 設備設計部長

佐々木邦治 氏 株式会社三菱地所設計 機械設備設計部長

葛岡 典雄 氏 建築設備設計コンサルタント(前鹿島設備設計部長)

本田 広昭 株式会社オフィスビルディング研究所 代表取締役



“集合知”による新しい価値創造の仲間たち！  
「オフィスシンポジウム2030」  
2014年5月28日  
出演＆関係者一同





私たちの問題意識を出版物に託した理由は…

- ・ 同じ想いの方々への応援歌として、課題解決の拡がりに期待した
- ・ 出版を通じることで、メディアやネットへの問題意識拡散を期待した
- ・ 世代の責任として、問題の本質を掘り下げて次の世代へ繋ぐ役割
- ・ 時代の記録として                    などなど…

「日本のオフィスを豊かな空間に！」活動のすべてを

<http://officebldg.jp>

ホームページに公開していますので覗きにきてください！

ご清聴ありがとうございました！

「次世代ビルの条件」「オフィスビル2030」共著者一同を代表して